市長日記

瀋陽市との観光交流

昨年春、わたしが県議会議員のころから親交があり、長崎中国総領事館で領事を務められていた李承志（リ ショウシ）さんが長崎での勤務を終え、故郷の瀋陽（しんよう）市（旧奉天（ほうてん））に帰られました。

李さんは長崎県だけでなく、本市のこともいつも気にかけておられ、「九十九島は本当にすばらしい。瀋陽市は内陸にあって海がないので、九十九島の美しい景観と青い空、緑の島々をぜひとも瀋陽市民に見せたい」とよく話されていました。昨年離任されるときにも、瀋陽市と佐世保市との友好をもっと深めたいと熱く話され、それを実現する一つの方法として、両市で「観光交流協定」を結んではどうかとのご提案までいただきました。

瀋陽市は人口約800万人。札幌市、川崎市と友好都市の関係にあり、周辺都市を含めると2,300万人にもなる中国東北地方の中心都市です。北海道や東日本を中心に、毎年1万人以上の人が観光のため日本を訪れているとのことで、それを何とか本市へ誘致するため、今回、5月27日から4日間、佐世保観光コンベンション協会の皆さんと一緒に、瀋陽市と大連市へPRに行ってきました。

現地では、現在、瀋陽市の外事弁公室で、人民対外友好協会国際部の要職に就かれている李さんのご尽力もあり、旅行社・マスコミの方などを多数お招きして、観光友好交流会を催すことができました。参加した皆さんは当初、九州や佐世保、九十九島などについて、ほとんど認識がなかったようでしたが、本市観光用のDVDなどを観ていただくと、異口同音に九十九島のすばらしさを強調されていました。

今回は、瀋陽市の観光協会と佐世保観光コンベンション協会との間で、観光交流協定を締結することも実現でき、民間レベルでの観光交流がいよいよ始まりそうです。

佐世保と中国。近くにありながら、未だ本格的な交流はなされていません。李さんが与えてくれたチャンスを生かし、中国の皆さんにとっても魅力的な佐世保をさらにアピールして、今後の観光振興につなげていきたいと思います。

佐世保市長　朝長　則男

李承志さん（左）と九十九島（右）

すこやかプラザのオープン!

6月1日、保健所や急病診療所、子育て・高齢者の支援機能などを集約した「佐世保市中央保健福祉センター」（愛称:すこやかプラザ）が高砂町に完成し、落成記念式典を開催しました。同センターには5月下旬から順次各部署が移転し、同日から正式に供用を始めています　問保健福祉政策課　☎24-1111

3階福祉用具展示室

❶センター外観❷テープカットを行う朝長市長（右から3人目）❸「すこやかプラザ」の愛称を考案した門田諒子（りょうこ）さん（清水中学校1年。右から2人目）と入賞者のお二人（右から1人目と3人目）❹1階ロビー❺1階総合案内❻3階長寿社会課窓口

SASEBO 編集後記

わたしの子どもたちがまだ小さかったころ、晴れても雨でも、お出掛けといえばパールシー水族館。タッチング水槽ではしゃぎ、ドームシアターの「アリ」に驚き、ジオラマ水槽のカメに声を掛ける。子どもたちは何度行っても飽きることなく繰り返していました。あれから数年経ち、年を重ねた子どもたちに今回の取材で一足早くイルカと対面した話をすると興味津々。すっかり大人びてしまった顔が一瞬で幼いころに戻りました。子ども向けだと思われがちな水族館ですが、今回のリニューアルは子どもから大人まで十分楽しめそうです。「海きらら」のオープンが待ち遠しいですね。（W）

元気な朝ごはんレシピ

ヘルシークッキングコンテスト 魚部門 優秀賞

あじほぐし 梅と大葉のハーモニー

材料・4人分

アジ	中4尾（320g）
青しそ	10枚
梅干し	3個
白ごま	小さじ1/2
黒ごま	小さじ1/2

作り方

❶アジは焼いてから骨を取り除き、身をほぐす。
❷梅干し2個は種を取り除いて刻み、千切りにした青しそとあえる。
❸❶と❷をあえ、残りの梅干しを上に飾る。
❹❸の上にごまを振りかける。

● 考えていただいた人
前島健吾さん
（佐世保北高校1年・当時）

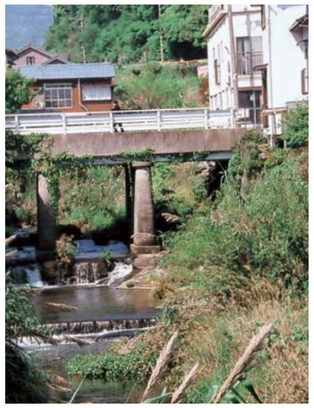
● 1人分の栄養価
熱量74kcal、たんぱく質10.9g
脂質2.2g、塩分1.8g

● ワンポイント　梅干しと青しそで風味が付き、魚が食べやすくなります。

歴史散歩

大正橋（梅田町）

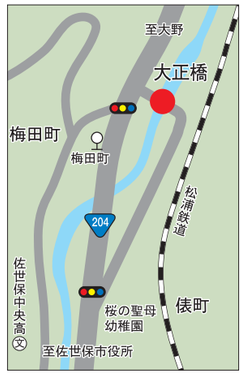
第528回



俵町の桜の聖母幼稚園脇から、国道二〇四号と松浦鉄道線路の間に市道俵町大正橋線が走っています。延長二〇〇メートルほどの短い路線ですが、今の二〇四号が開通するまではここが国道でした。佐世保川に架かる大正橋は、狭いうえに直角にカーブするため、車が増加し始めた昭和三十年ころから不便を来たしていました。

大正橋の名称が示すとおり、この橋は一九一二～二六年までの大正時代に架けられました。

大正時代、一九〇三年にヨーロッパで始まった第一次世界大戦で、日本は日英同盟に基づき参戦。対戦国のドイツ領南洋諸島や青島（チンタオ）（中国）を占領するなど、戦勝国の一員となって利益を得、戦争特需で国内産業は大活況をみました。



佐世保も艦船の出入りが増加、陸は自動車が登場して交通事情が一変、道路の整備が時代の要請となったのです。国は大正八（一九一九）年に都市計画法を作り、佐世保はこれに基づいて市街区の拡大を図りました。

当時、梅田、春日、横尾、山ノ田などは佐世村として独立していた時代。大正末年架橋の大正橋は、言わば市境に架かる橋でした。しかし、明治三十五（一九〇二）年の市制施行時に分村した佐世村との合併は時間の問題となっていて、大正橋を含む三等大路第一類第一号線の建設は、まさに時代の要請でもありました。

大正十年生まれで、ことし米寿の八十八歳を迎えた小井出ハツ子（ね）さんは、橋のすぐ近くで生まれ育ち、今も住んでおられます。「父米一（よねいち）が大正七年から千坪の土地で乳牛を飼育。わたしは橋の下で泳いだり小魚をザルですくったりして遊んでいました。橋の上流と下流には精米用の水車が回っていました」と往時を話されました。

筒井 隆義

※本市に掲載しているイベント等の内容・日時は、新型インフルエンザの流行状況などにより変更する場合があります。ご了承ください。
※6月号の「市役所各課の配置変更」で、1階に「会計管理室」の記載が漏れていました。行財政改革推進局からおわびして訂正します。